



■ 石鎚北麓の家

- 所在地 : 愛媛県西条市
- 敷地面積 : 750.34㎡
- 建築面積 : 220.93㎡
- 延床面積 : 193.22㎡
- 主要構造 : RC造+鉄骨造





■ リビングルーム。左奥には複数のコート越しにエントランスまで視線が抜ける。右手には階段室越しに寝室。



■ エントランス。予備室、リビングの向うに広がる水田

土地勘のない遠方での計画でしたので過去25年の気象データをアメダスで調べることにしました。興味深かったのは風向、100%南北方向にしか風が吹かないこと。さらに面白いことに夏期の最多風向が北風に変わります。この風向きの傾向に加えて、南に広がる水田越しの山並みの風景、さらには敷地形状と周辺環境から、南北だけに開く形式としたのは自然なことでした。

■ 詳しくは説明ページをご覧ください。





■ 母屋の手洗コーナーより離れ方向を見る。

■ 離れ

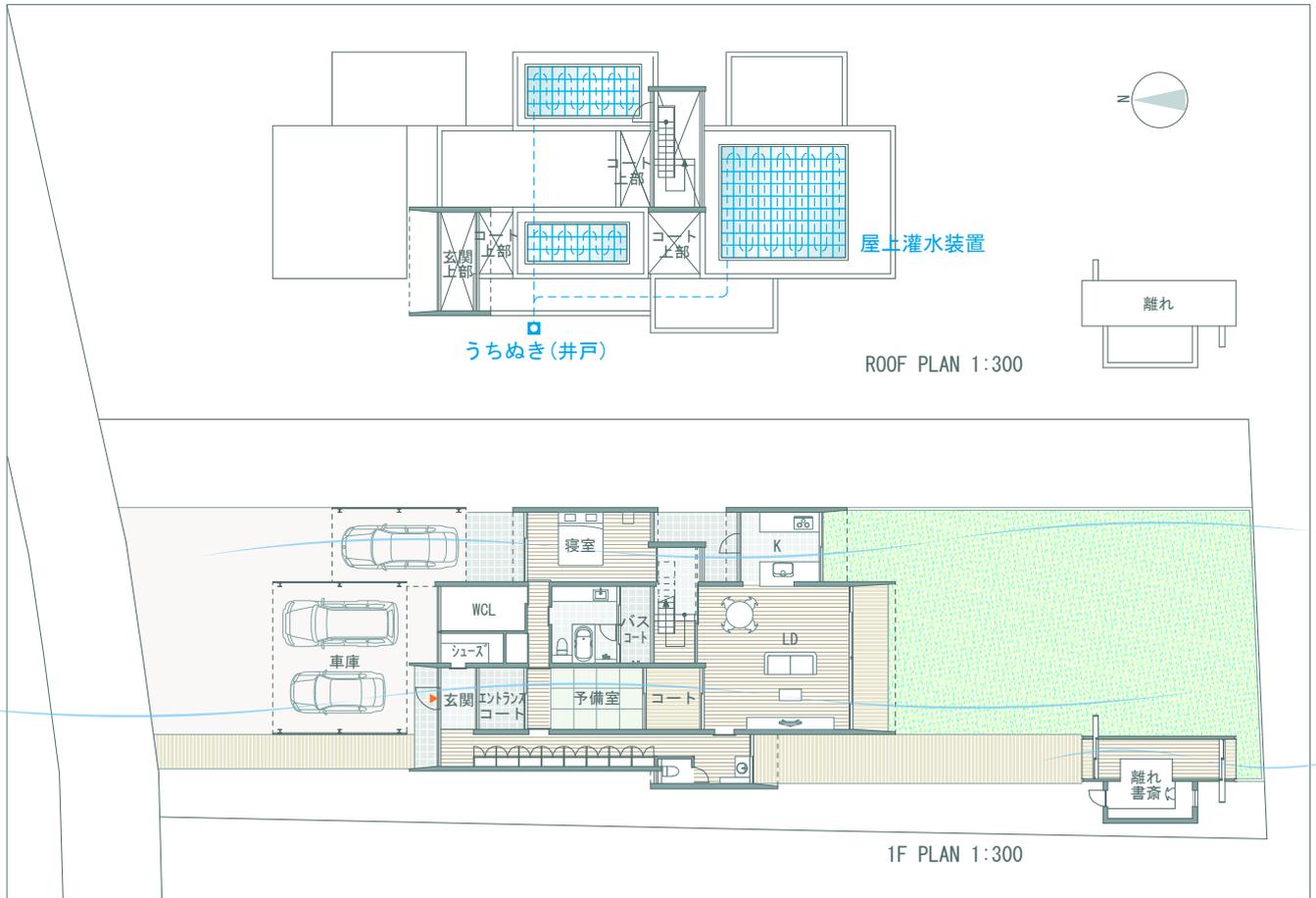
主人の書斎として計画された離れ。宙に持ち出すように開け放たれるサッシュによって筒状の空間は文字通り蓋のない筒のようになります。とても開放的でありながら、そのスケール感から小さめのトンネルというか、大きめの土管というか、妙に落ち着きのある空間になっています。



■ 離れ外観



■ 離れ内観



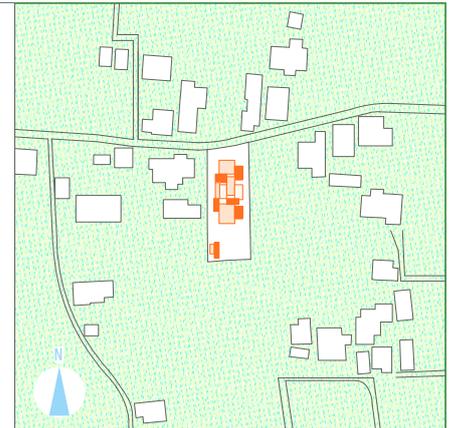
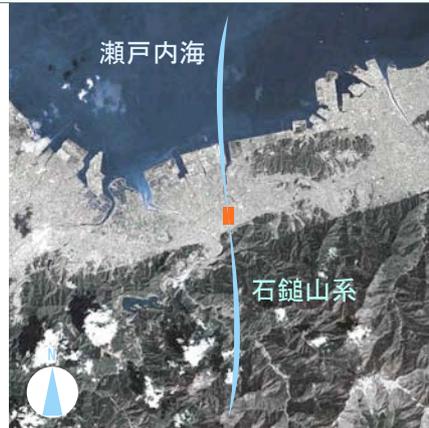
■ 玄関より離れ方向



■ エントランスタ景

水田が広がり石鎚山系が遠望できるロケーション、都市部とはずいぶん違う環境です。外に一步出れば水田が広がり山並みを見渡すことができますが、この美しい風景もそれが当たり前前の土地では、あらためて眺めたりすることも、あまりしないようです。

このような環境では建物の内部と外部の関係を考える時も、自ずと都市部とは違って来るように思われます。ここではより「遠い外部」との関係性を考えています。



幅、高さ、奥行が異なるいろんな大きさの筒状の空間が「遠い外部」に射程を定めます。望遠レンズのファインダーがその狙いを定めるように。外での感覚の延長線上にある風景、つまりいつも見慣れれている風景に留まらず、内部に入ることによって新鮮に映る風景、そんな視点をたくさんもつ内部空間をつくりたいと思いました。別の筒への移動で画角は変化し、さらに複数の筒越しにもいつも外部を感じることができます。季節が田んぼの風景を変え、山並みは日々刻々とその表情を変えます。

幅(W) 高さ(H) 奥行(D) 寸法で決定される筒は、それぞれの寸法でその開放性（～あるいはプライバシーの度合い～）も決まります。間口が広くて奥行が小さければ門のように開放的になりますし、逆に間口が小さく奥行が長ければトンネルようになります。このズームのような単純な操作で各部屋のあり方を制御できないものかと考えています。玄関や階段室は門に近く、離れや、収納が並ぶ廊下はトンネルに近い。リビングに比べて寝室はプライバシーが高いプロポーションをとっています。

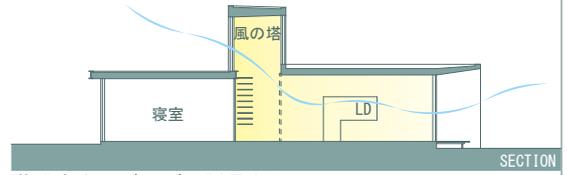


過去25年のアメダス気象データ調査と敷地環境から導かれた南北だけに開く形式。

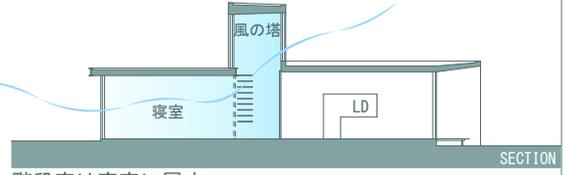


■ 寝室から階段室越しにリビング方向。 ■ 階段室のハンドル操作による可動物干。

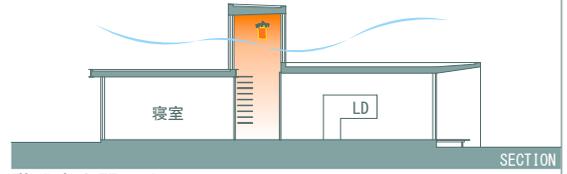
計画当初より「風の塔」と名付けていた階段室。この階段室とリビング、寝室を隔てる2カ所の半透明の大型引戸の開閉によって風をコントロールします。季節、風向き、昼夜、あるいは生活のシーン等にあわせて、階段室をリビング側の延長空間としたり、寝室側に属させたり、完全に閉じたりと気候や生活にあわせて可変できるようにしてあります。



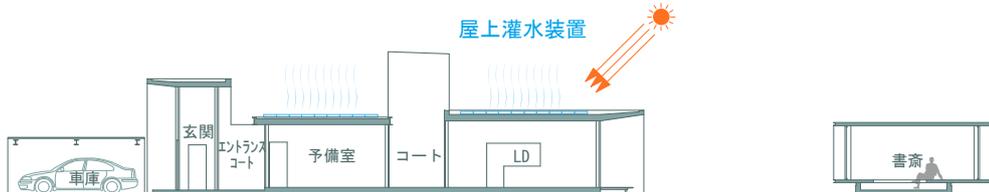
階段室をリビングの延長として



階段室は寝室に属す



階段室を閉じる



SECTION 1:300

ここ愛媛県西条市には【うちぬき】と呼ばれる自噴するほど豊富な湧き水があり、上水道のインフラがありません。1年を通して18℃程度のこの地下水を夏期冷房に利用しています。廃棄物をリサイクル活用したフェルト状マットを屋根に敷き、灌漑用チューブで水を滲みわたせます。屋上緑化や散水設備だけでは、すぐに水が流れ落ちてしまうため長時間、水が留まる装置を考案しました。



■ キッチンからの眺望

■ 屋外シャワーがあるバスロフト

■ 屋上灌水設備